

地質－４ クサリサンゴ

クサリサンゴは、小さな管状のサンゴ個体が、鎖状につながり、群体を形成することから、この名で呼ばれています。示相化石、示準化石として重要で、床板サンゴ類に属しています。

古生代オルドビス紀に出現して世界中に広がり、シルル紀に繁栄しました。日本では、宮崎県五ヶ瀬町鞍岡の祇園山、四国の横倉山、東北の北上山地などで産出しています。祇園山の石灰岩は、わずかに火山灰を含んでいるので、赤道近くの火山島の周辺にできたサンゴ礁が、長い年月をかけてプレートにのって移動し、現在の位置までやってきたと考えられています。

